

令和 6 年度 自己評価・学校関係者評価報告

2025.5

学校法人成城学園

幼保連携型認定こども園 日吉幼稚園

1、本園の教育目標

学園理念である「社会を生き抜く体力のある子ども」を標榜し、自発的な活動から生まれる体験・経験を通して培われていく子どもの自立性・主体性を育むことを目標とする

また、以下の6項目を本園での“目指すべき子ども像”として園生活の中で育んでいく

(1)自分で考え、自分で行動する子ども(2)人や社会に積極的に関わる子ども(3)思いやりや優しい心を持つ子ども(4)命を大切にする子ども(5)自然を大切に身近に感じる子ども(6)浪費をしないで{もったいない}の心を持つ子ども

2、本年度の重点的な目標・計画

- ①教育課程に基づき、それぞれの 年齢に応じた保育計画を作成 し、実践する。
- ②働き方改革
- ③0～2歳の子育て支援
- ④多様な人材の活用
- ⑤寄付行為の変更
- ⑥長時間保育に対する備え

3. 評価項目の達成及び取り組み状況（令和5年度の振り返り）

日 吉 幼 稚 園		
	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育課程に基づき、それぞれの 年齢に応じた保育計画を作成 し、実践する。	年月齢の違いをクラス内のこどもを見る時に意識し、月齢差と育ちの個人差・個性差などを加味した見方を月間カリキュラム会議では意識して話し合ってきた。また個人の成熟を主として見る時期と、クラスとしての成熟を見ていく時期ことを視点に持つようにしてクラス運営をすることを目指している。
	【評価】 まだまだ満足のいく保育マネジメントにはなっていないが、取り組みの方向性としては定着しつつあると思われる。 つまり個人差や個性差だけでなく3月生まれと4月生まれの月齢差について配慮することによって単なる〇〇歳児という学齢表記で生まれがちな発達の視点の誤解や誤差が、こども一人ひとりの育ちを見極めていく際に、より正確な見方になってきた。月齢を伝えてから議論するスタイルも定着している。特に三歳未満児クラスには重要だが幼児クラスにも定着していることが評価できる。	
2	働き方改革	3歳未満児の3号認定の保育チーム・長時間(2号認定のくま・ねこ・新2号認定の「かるがも」)の保育チーム、1号認定の保育チームによって1年間の保育展開と勤務形態が異なる。 特に長期休暇中の勤務と休暇の在り方については、すべてのチームで同じではないということの理解を更に深めてもらう説明が必要と思われる。 勤務実態としてはしっかりと取り組んでくれている。

		新2号認定の預かり保育の利用者が増えたため、担当職員と部屋の増加が必要になり、その取り組みの具体化に着手している。 令和6年度入園説明会において、定員制限のない預かり保育を実施するとして公表した
	【評価】 人員・保護者送迎の為の駐車場確保・保育室確保が課題であり、その実現に向けてチームで検討し実現可能な段階まで計画ができたことは評価に値する。 令和7年度は預かり保育は希望すれば全員受け入れられる見込み。 保護者からは好評である。「いつでも利用できるという体制は安心感があってありがたい」ということであった。	
3	0～2歳の子育て支援	こども誰でも通園制度(乳幼児通園支援制度)がスタートして市内では高槻双葉幼稚園と本園の2園のみの取り組みとなっている。満3歳までの制度、且つ月10時間ということで、満3歳以降で3年保育までの間に空白期間が生じる。 これは満3歳児保育または一時預かり事業一般型のいずれかでフォローしなければ切れ目のない子育て支援にはならないため、その工夫の余地が課題として残された。 日吉幼稚園は一時預かり事業一般型は実施しているが、今後満3歳児保育の検討が必要になってくると思われる。
	【評価】 「就労支援」としての2号認定・新2号認定保育に対し、誰でも通園は「子育て支援」とこ家庁は位置づけている。つまり1号認定の入口としての制度の実施となるが、三歳未満児からの切れ目のない子育て支援としては、満三歳が三年保育就園までの切れ目を埋める手立てが課題として残されている。これについては一時預かり事業一般型もしくは満三歳児保育の制度を実施することで1号認定は切れ目がなくなるのであるが、この複雑な制度自体が継ぎ接ぎな制度であり、事務量の煩雑化を生むことにもなるし、子育て家庭への理解も難しいものになっている。 しかし、「子育て支援」事業としては1歩前進ではある。	
4	多様な人材の活用	YOLO JAPAN の外国人雇用は6名のスタッフが午前中を中心に子どもの遊びをフォローし、安全管理についても寄与してきたと評価でき、今後も引き続いて取り組んでいきたい。また、1人は就労ビザ提供法人として取り組んだ、バイリンガル正規職員がいてワーキングホリデー・留学生などの短期ビザスタッフが入れ替わることで、子どもたちにとっての多様性になるよう今後も進めていきたい。 木工コーナー(年長専用)スタッフが週4日定着、営繕スタッフは定着し、子どもたちの木工体験は積み上がるスキルにもなっている。また営繕スタッフによる保育備品の政策修繕は質向上に貢献している。 保育環境評価(大阪教育大学教授)と特別支援スーパーバイズ(支援児施設のベテラン経験者)、臨床心理士、体育講師陣と多彩に活躍し保育の質向上は充実しつつあると思われる。
	【評価】 バイリンガルスタッフが日常の遊びの中で、安全と遊び相手をすることは人手の手厚さと人の多様性に貢献している。木工スタッフも保育環境充実の一部として定着し、金づちやノコギリが年長児にとって身近なものになっている。 また営繕スタッフは直接こどもには接しないが、設備備品・手作り遊具・素材などの充実につながり保育環境の豊かさとなって貢献している。スタッフの作業する姿を見ることも大切な経験という実感がある。	
	寄付行為の変更	法律の専門家と個別に相談しながら、理事や評議員・役員選任委員会などの構成に十分な吟味と検討を進めてきた。国や大阪府のモデルは学校法人の独立性と独自性について担保できるか、社会福祉法人との

5	違いはどうであるかという検討もしながら成文化を図り完成した。	
	【評価】 「多様性と選択の教育」と「平等性の福祉」がうまく絡み合う難しさは認定こども園に移行し以来のテーマではあるが、寄付行為の改正に伴い、法的根拠の中で相矛盾した要素がより明確に理解でき、成文化につながることができた。選択と直接契約を基本とする認定こども園として今後も今までにない施設の在り方や運営について考えていきたい。	
6	長時間保育に対する備え	令和6年度入園に向けて、預かり保育の利用定員の撤廃を入園説明会と在園児への報告で公表に踏み切った。 公表するまでに、スタッフの確保・保育室の確保・保護者送迎のための駐車場の確保が課題として挙がり、そのいずれもがスタッフ会議の中で解決の目途まで漕ぎつけたため公表の運びとなった 2号認定も新2号認定も別の保育室を設定しているが、長期休暇中の保育と平常時の保育には時間の違いが大きいため、長期休暇中の保育の充実を異年齢保育スタイルで充実していく課題に取り組んでいきたい旨の方針を担当者に伝ええる範囲での模索をした。
	【評価】 新2号認定が増加傾向にある。2号認定とは違い、希望して直接契約で入園できるメリットを感じる保護者も多く、日吉幼稚園の良さを家庭ごとで判断して直接入園願書を提出することの良さを保護者は感じていたと思われる。公表後は感謝と喜びの声が保護者から聞かれ、今の時代ニーズに少し対応できる改善につながったと感じる。本格実施は令和7年度になっていくが、6年度は方向性が明確に定まり公表できたことが評価できる。 、長期休暇中の保育と平常時の保育については、長期休暇中の保育の充実を異年齢保育スタイルで充実していく課題に取り組んでいきたい	

4、今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
①	預かり保育かるがもの拡大	新2号認定希望者をすべて受け入れられるようにしていく 駐車場・保育室・人材の3課題に対応していく
②	満3歳児保育の設置	園児減少にともない保育室と人員に有効性をもたせる工夫が必要 三歳未満児の就労支援ではなく、子育て支援としての切れ目のない保育提供を具体化していく。
③	暑さ対策	暑さに対する対応は、今後も重要となってくるため、設備投資を含めた対応が必要である。 遮光対策・ミスト及び扇風機などによる気温対策、エアコンなどによる気温・湿度対策を意識的に組み合わせたハイブリッド対応に取り組む。

5、学校関係者評価

①	園児が伸び伸びと独創的に楽しい園生活を送っていることを感じる。
②	保育者の見守りが優しくしっかりとできていることが伺える。
③	職員の入れ替えもあったようだが指導体制は安定的に運営されているように思われた。
④	施設として当たり前のことは実践できており、他の園で実現が難しいことや特徴を出すことに向けての努力が窺える。
⑤	月齢や個性の差を見て保育をされているところは、その子どもの独自性を見つけることにもつながるのではないかと感じた。
⑥	いつでも保育を利用できる態勢はありがたいこと。職員の労務量に配慮して職員を増員されたと聞くが求人は大丈夫か

- ⑦ 外国人雇用による子どものふれあい、木工コーナー専属スタッフなどによる楽しさと多様性は保育の資質向上につながっている。
- ⑧ 年月齢を意識した子ども理解とカリキュラム会議の協働による保育計画作成は評価できる点大きい
- ⑨ 同一施設内で働く方の違う保育チームが実働しながら教育と長時間保育の要望を受け入れていることは評価できる。
- ⑩ 切れ目のない子育て支援に向けて取り組んでいることは子育て家庭への支援に充実が伺える。
- ⑪ 寄附行為の変更を速やかに取り組まれたことはよかった。
- ⑫ 新2号認定の増加に伴う取り組みは保護者の高評価につながっている。更に保育内容を精査し充実を図っていくことに期待する。

6、財務評価

現時点での財務状況は大きな懸念もなく推移している。

しかし、人件費(最低賃金も R6 は大きく上昇)と物価の高騰が続いているために、今後の支出の増加は必然となる。

施設型給付金や処遇改善も改定が進められているものの、支出増は続くものと推測される。

この状況下において園舎屋上防水計画の見積もりや園舎外壁のメンテナンス、通園バスの買い替え時期の見通し、長時間保育園児の保護者送迎用駐車場の確保なども考慮に入れた財務計画を今後も立てていく必要がある。

厨房器具や空調設備などの修理や更新なども視野に入れた財務計画が求められる。

令和7年度にはこうしたことの一部分が実施されると思われる。こうした資材と工事にまつわる価格も高騰の一途であるため、積み立て資金の見直しが中期的見通しの見直しも必要になると思われる。